

2026. **7**
No. **240**

調査レポート

県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第75回くらしのアンケートから～

要	約		1
1	家計の状況		3
2	耐久消費財の購入状況		4
3	外食		6
4	貯蓄		7
5	ローン等の利用		8
6	夏季ボーナス		9
7	お中元		11
8	夏休みの過ごし方		12
(特別調査) 賃上げ・物価上昇関連			... 13



山梨中央銀行

要 約

1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が10.3%、「悪くなった」が32.0%、「変わらない」が57.7%。「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△21.7で昨夏と比べて5.8ポイント縮小。企業が賃上げに前向きに取り組むなど、雇用・所得環境は改善しているものの、物価高騰により家計負担感は増しており、県内勤労者の生活実感は依然として厳しさが払拭されていない。
- 家計上の悩みは、「物価上昇」が1位となり、以下、「収入の伸び悩み」、「税金等負担増」の順。

2. 耐久消費財の購入状況

- 耐久消費財の普及状況は、「スマートフォン」、「パソコン」、「ETC」の順。
- 今後半年間に購入希望のある耐久消費財は「スマートフォン」が最も多く、以下、「パソコン」、「4K・8Kテレビ」の順。

3. 外 食

- 外食は、毎月1回以上の利用が72.3%で、昨夏（71.9%）と比較すると若干の上昇。
- よく利用する店舗は、「ファミリーレストラン」が最多で、以下、「回転寿司」、「ファストフード」の順。

4. 貯 蓄

- 平均貯蓄額は569万円で、昨夏と比べて29万円増加。

- 現在利用している金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」の順。今後増やしたい金融商品は、「銀行預金」、「投資信託」、「株式」の順。
- 貯蓄する際重視する点は「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「金利が高い・利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」の順。

5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は28.4%で、平均借入額は1,052万円。
- 利用目的は「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「子や孫などへの教育資金」の順。
- 借入先は「銀行（メガバンク・地方銀行）」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」の順。

6. 夏季ボーナス

- 夏季ボーナスの予想は、「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回り、両比率の差は昨夏比1.0ポイント悪化。長引く物価高などを背景に景気の先行き不透明感が漂うなか、勤労者はボーナスに対しやや慎重な見方。
- 平均手取り予想額は41万円で昨夏と比べて1万8千円の増加。
- 使いみちは「貯蓄」が最も多く、以下、「買物」、「生活費の補填」、「旅行・レジャー」の順。

7. お 中 元

- お中元を贈る予定者は、全体の 33.5%。贈る件数は「2 件以下」が最も多く、平均件数は 3.5 件で昨夏から増加。
- 1 件あたりの単価は、「5,000 円程度」が最多。平均単価は 4,194 円（昨夏 3,910 円）と昨夏より上昇し、平均予算総額も 14,679 円（同 12,121 円）と、昨夏に比べて増加。
- 贈りたい商品は、「お菓子・スイーツ」が最多で、以下、「ビール（含むビール券）」、「ハム・ソーセージ」、「お茶・コーヒー」の順。

8. 夏休みの過ごし方

- 「特に予定なし」を除くと、「日帰り旅行」が最多で、以下、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、「スポーツ・健康づくり」、「アウトドア」、「海外旅行」の順。
- 「国内宿泊旅行」の宿泊日数は「2 泊」が最多となり、平均宿泊日数は 2.2 泊。

● 調査実施要領

調査対象：インターネット調査会社にモニター登録されている県内の勤労者 546 名

調査方法：調査会社モニターあての Web アンケート調査

調査時期：2026 年 5 月下旬から 6 月上旬

（特別調査）賃上げ・物価上昇関連

賃上げの状況、物価上昇に伴う家計への影響について調査を実施。

- 昨年と比べた定例給与の水準については、「増えそう」が 17.8%、「変わらない」が 66.4%、「減りそう」が 14.4%。
- 定例給与増加予定の理由については、「定期昇給」が 43.2%、「ベースアップ」が 28.4%、「定期昇給とベースアップ」が 28.4%。
- 昨年と比べた 1 か月の家計負担の増加額については、「10,000 円以上 20,000 円未満増加」が 21.6%、「5,000 円以上 10,000 円未満増加」が 20.1%、「20,000 円以上増加」が 15.6%、「5,000 円未満増加」が 8.4%。6 割強が昨夏に比べ家計負担が増加したと回答。
- 主に増加した項目については、「食費」が最多で、以下、「燃料費（ガソリン代）」、「水道・光熱費」、「外食費」の順。
- 昨年と比べ、物価がどの程度上昇しているかについては、「5 ～ 10% 未満」が最多。

〈 回 答 者 内 訳 〉

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	67人	12.3%
	30 代	132	24.2
	40 代	181	33.2
	50 代 以 上	166	30.4
家 族	既 婚	305	55.9
	未 婚	241	44.1
性 別	男 性	386	70.7
	女 性	160	29.3
合 計		546	100.0

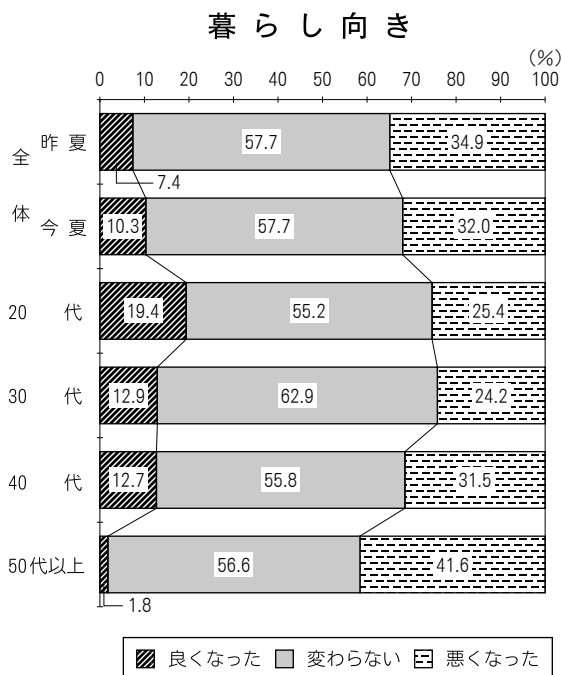
1 家計の状況

暮らし向きの厳しさは払拭されず

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が10.3%、「悪くなった」が32.0%、「変わらない」が57.7%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△21.7となり、昨夏比では5.8ポイント縮小した。

人材の確保・維持の観点から、企業が賃上げに前向きに取り組んでいるほか、ボーナス支給状況も増額基調にあるなど、雇用・所得環境は改善傾向にある。しかし、中東情勢の緊迫化や円安などを背景とした原油や食料品、光熱費などの生活関連の物価高騰により家計の負担感が増していることから、県内勤労者の生活実感は依然として厳しさが払拭されていない様子が窺われる。

年代別にみると、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は20代が△6.0（昨夏△20.4）、30代が△11.3（同△6.5）、40代が△18.8（同△30.3）、50代以上が△39.8（同△42.8）となっている。特に、50代以上は「良くなった」の回答比率が1.8%にとどまったのに対して、「悪くなった」の回答比率は41.6%と高く、若年層と比較して生活費負担の重い中高年層に、暮らし向きの厳しさが窺われる。

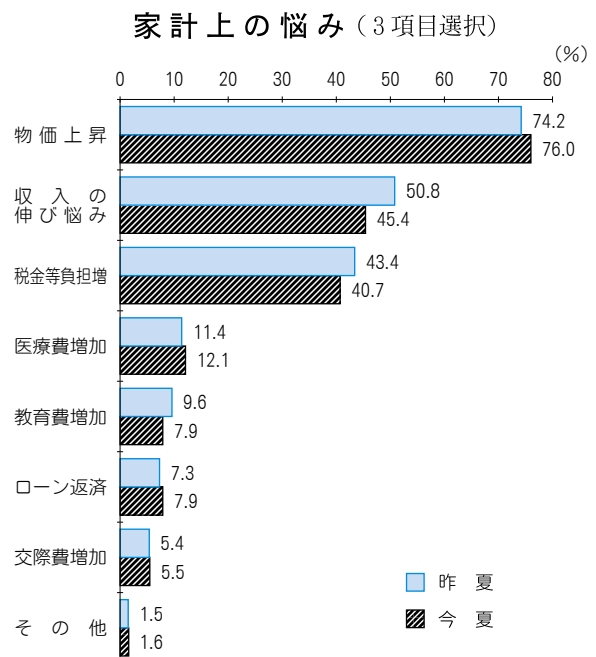


家計上の悩みは「物価上昇」が引き続き1位

家計上の悩み（3項目選択）は、「物価上昇」が76.0%と最も多く、以下、「収入の伸び悩み」（45.4%）、「税金等負担増」（40.7%）と続いた。

このうち「物価上昇」は、昨夏を1.8ポイント上回り、夏の調査としては過去最高で、引き続き1位となった。中東情勢の緊迫化による原油・資源価格の高騰や、円安による輸入コストの上昇、人手不足に伴う人件費などの上昇を背景に、多様な品目で物価が上昇しており、家計にとって大きな負担となっている様子が窺われる。

昨夏と比較すると、「物価上昇」、「医療費増加」、「ローン返済」などの比率が上昇した一方、「収入の伸び悩み」、「税金等負担増」、「教育費増加」の比率は低下した。



2 耐久消費財の購入状況

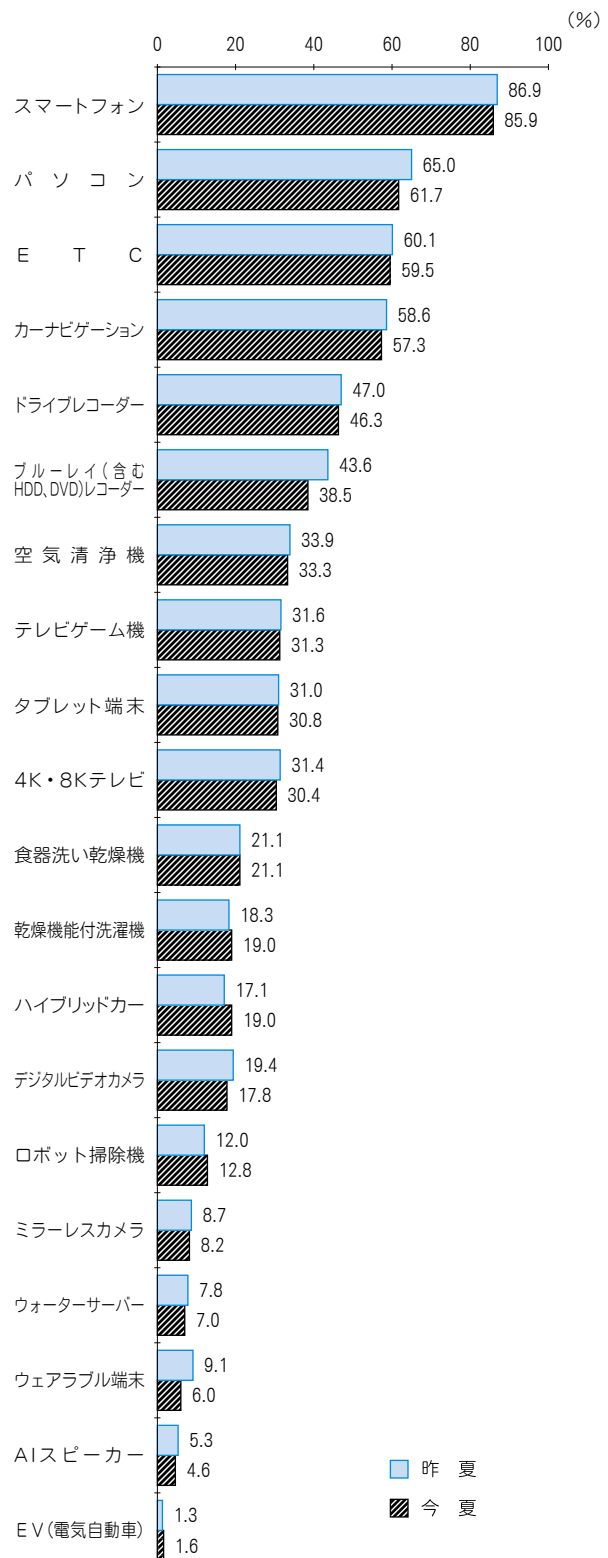
普及率は「スマートフォン」がトップ

耐久消費財のうち、主要家電品など 20 品目についてその普及状況をみると、「スマートフォン」(85.9%)、「パソコン」(61.7%)、「ETC」(59.5%)、「カーナビゲーション」(57.3%)の順となった。

昨夏と比較すると、「ハイブリッドカー」(昨夏比+1.9ポイント)、「ロボット掃除機」(同+0.8ポイント)、「乾燥機能付洗濯機」(同+0.7ポイント)の比率が上昇した一方、「ブルーレイレコーダー」(同△5.1ポイント)、「パソコン」(同△3.3ポイント)、「ウェアラブル端末」(同△3.1ポイント)などの比率は低下した。

年代別の普及率をみると、「スマートフォン」はすべての年代で1位となっている。2位は20代が「ETC」、30代が「パソコン」・「ETC」(同順位)、40代以上が「パソコン」となっている。なお、「パソコン」、「ブルーレイレコーダー」は年代が高くなるにつれて普及率も上昇している。

耐久消費財の普及状況

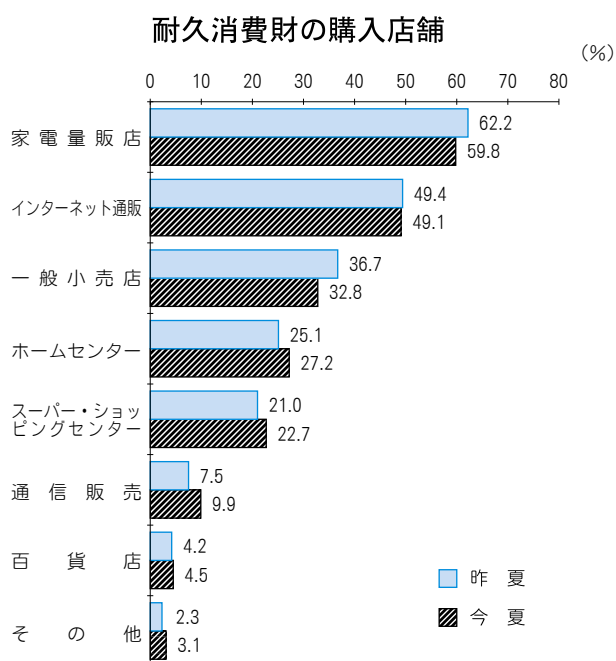


購入店舗は「家電量販店」がトップ

耐久消費財を購入した店舗（複数回答）は「家電量販店」が最も多く、以下、「インターネット通販」、「一般小売店」、「ホームセンター」、「スーパー・ショッピングセンター」の順となった。

前回同様1位となった「家電量販店」（59.8%）での購入比率は、2位の「インターネット通販」（49.1%）を10.7ポイント上回っており、耐久消費財が主に家電量販店で購入されている状況が続いている。なお、「インターネット通販」は、20代、30代の利用率がともに43.3%であるのに対し、40代、50代以上は各々53.0%、51.9%となっており、中高年層の利用率が高いという特徴がみられた。

昨夏と比較すると、順位の変化はみられないが、「通信販売」、「ホームセンター」、「スーパー・ショッピングセンター」、「百貨店」の比率が上昇した一方、「一般小売店」、「家電量販店」、「インターネット通販」の比率は低下した。

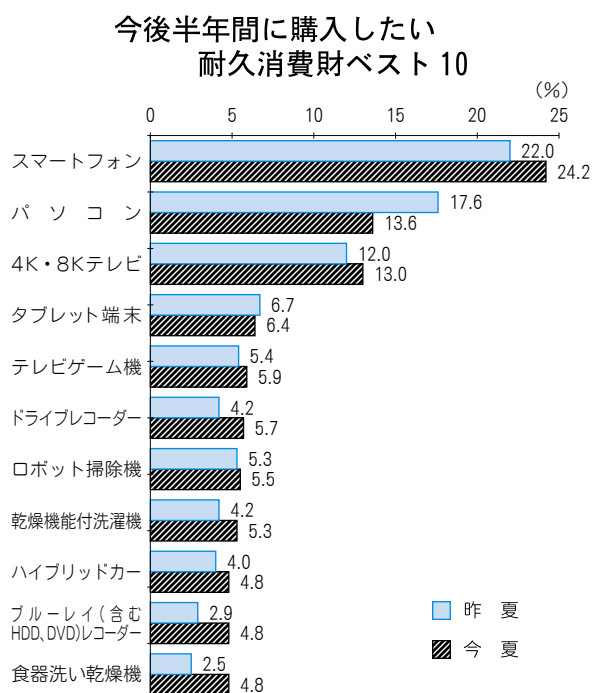


購入希望も「スマートフォン」が最多

今後半年間に購入希望のある耐久消費財（複数回答、3品目以内）をみると、1位は「スマートフォン」（24.2%）で、以下、「パソコン」（13.6%）、「4K・8Kテレビ」（13.0%）、「タブレット端末」（6.4%）の順となった。

上位品目の動きをみると、トップ3に順位の変動はなかったが、「スマートフォン」、「4K・8Kテレビ」の比率が各々2.2ポイント、1.0ポイント上昇した一方、Windows10のサポート終了に伴う買い替えが一巡した「パソコン」は4.0ポイント低下した。

上記品目以外の動きをみると、比率が上昇した品目は「食器洗い乾燥機」、「ブルーレイレコーダー」、「ドライブレコーダー」、「乾燥機能付洗濯機」、「ハイブリッドカー」などであった。一方、低下した品目は「タブレット端末」などであった。



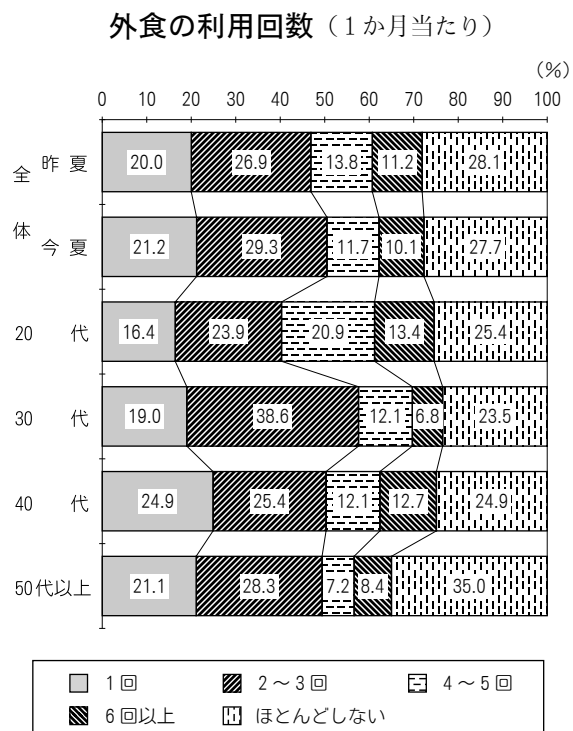
3 外 食

外食の利用状況は「月2～3回」が最多

家族での外食の利用状況をみると、全体の72.3%が毎月1回以上利用しており、その比率は昨夏（71.9%）と比べて0.4ポイントとわずかながらも上昇した。

内訳をみると「月2～3回」が29.3%と最多で、以下、「ほとんどしない」（27.7%）、「月1回」（21.2%）、「月4～5回」（11.7%）、「月6回以上」（10.1%）の順となっている。

なお、外食の利用状況を年代別にみると、毎月1回以上利用している割合は20代が74.6%（昨夏84.1%）、30代が76.5%（同72.9%）、40代が75.1%（同73.9%）、50代以上が65.0%（同60.8%）となっている。



利用店舗はファミリーレストランがトップ

よく利用する店舗（3項目以内）は、「ファミリーレストラン」（51.1%）が最多で、以下、「回転寿司」（39.4%）、「ファストフード」（35.5%）、「中華料理・ラーメン店」（30.2%）、「和食専門店」（18.1%）と続いた。

昨夏と比較すると、「焼肉店」、「和食専門店」、「居酒屋」、「回転寿司」の利用が上昇、「カフェ」、「ファミリーレストラン」、「中華料理・ラーメン店」が低下、「ファストフード」、「洋食専門店」がほぼ横ばいとなった。

年代別にみると、すべての年代で1位が「ファミリーレストラン」となり、2位は20代が「ファストフード」、30代、40代が「回転寿司」、50代以上は「中華料理・ラーメン店」となった。

よく利用する外食店舗（3項目選択）

	昨夏	今 夏				
	全体	全体	20代	30代	40代	50代以上
ファミリーレストラン	52.3	51.1	52.2	57.6	55.8	40.4
回 転 寿 司	37.9	39.4	37.3	45.5	39.2	35.5
ファストフード	35.2	35.5	41.8	37.1	37.6	29.5
中 華 料 理・ ラ ー メ ン 店	31.4	30.2	22.4	21.2	33.1	37.3
和 食 専 門 店	16.0	18.1	14.9	28.8	12.2	17.5
焼 肉 店	11.6	14.3	16.4	15.2	17.7	9.0
居 酒 屋	9.4	11.0	11.9	7.6	7.7	16.9
カ フ ェ	11.4	8.8	11.9	13.6	8.3	4.2
洋 食 専 門 店	7.8	7.5	11.9	9.1	3.9	8.4
そ の 他	2.0	2.7	1.5	1.5	2.2	4.8

4 貯 蓄

平均貯蓄額は569万円

現在の貯蓄額の平均額は569万円（昨夏540万円）で昨夏と比べて29万円増加した。年代別に貯蓄額の平均額をみると、20代が349万円（昨夏比+37万円）、30代が579万円（同+76万円）、40代が578万円（同+37万円）、50代以上が641万円（同△79万円）となっている。

貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最多で、以下、「2,001万円以上」、「201万円～300万円」、「401万円～500万円」、「101万円～200万円」の順となった。

利用している金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が80.0%と最も多く、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「投資信託」、「個人年金」、「株式」の順となった。昨夏と比較すると、「国債などの債券」、「個人年金」、「生命保険」などの利用率が上昇した一方、「ゆうちょ銀行貯金」、「銀行預金」、「投資信託」の利用率は低下した。

年代別に利用率をみると、すべての年代で、1位と2位の順位は、全体の順位と同じとなっている。3位は、20代が「投資信託」、30代が「生命保険」・「個人年金」（同順位）、40代以上が「生命保険」となっている。

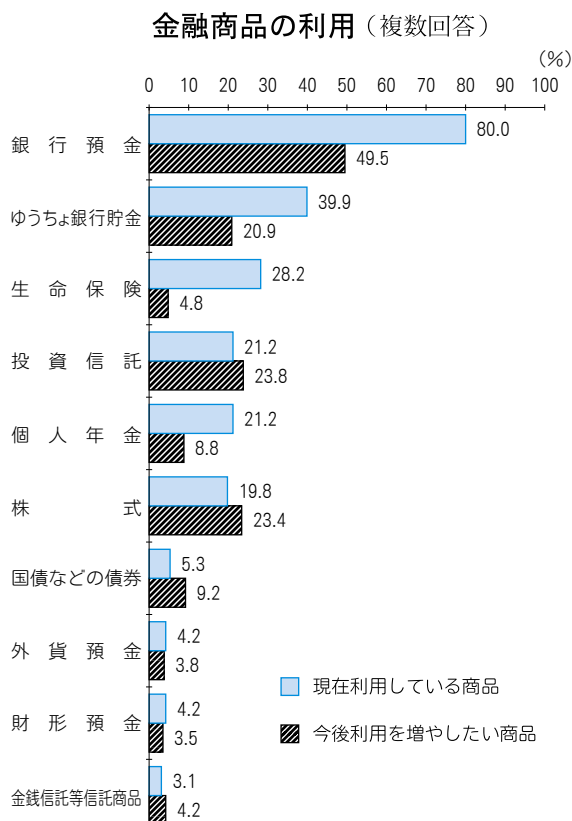
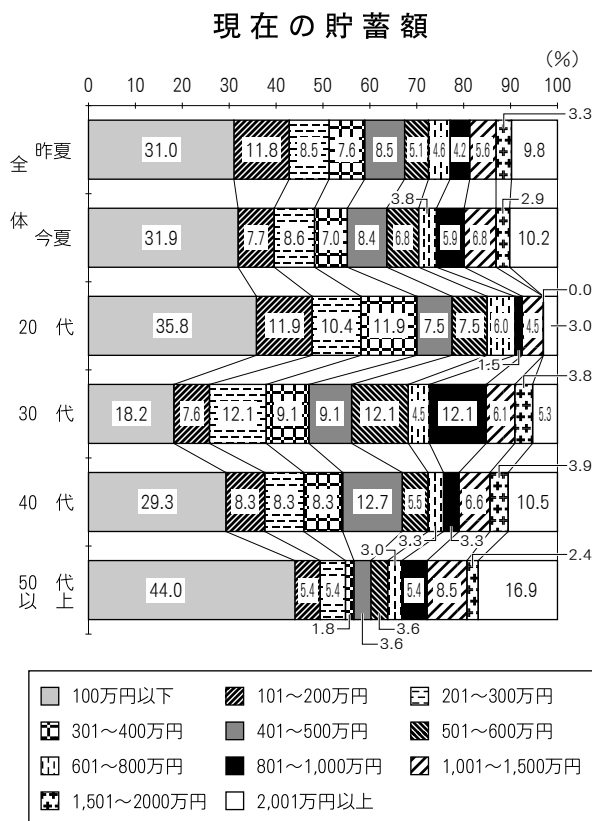
今後増やしたい金融商品は「銀行預金」が最多

今後増やしたい金融商品（複数回答）は「銀行預金」が最多で、以下、「投資信託」、「株式」、「ゆうちょ銀行貯金」、「国債などの債券」の順となった。

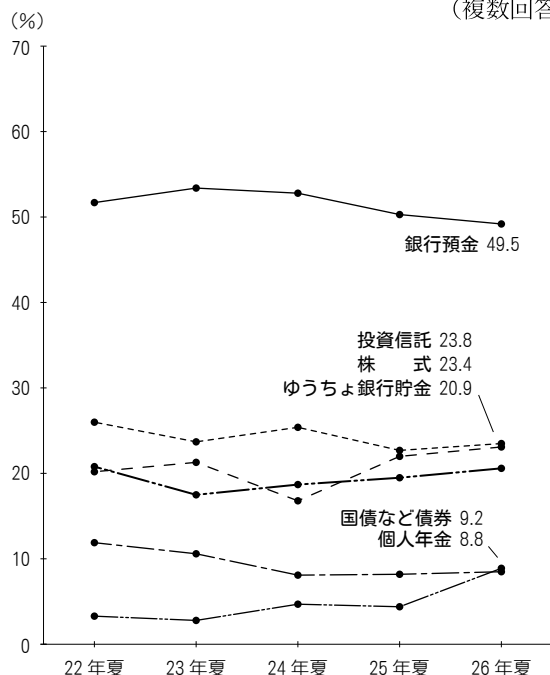
年代別にみると、すべての年代で1位は「銀行預金」となった。2位は20代が「ゆうちょ銀行貯金」、30代が「株式」、40代以上が「投資信託」となった。

貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「金利が高い・利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」、「値上がりが期待できる」、「利用金融機関が自宅から近い」の順となっている。昨夏と比べて「金利が高い・利回りが良い」と「値上がりが期待できる」の比率が、各々5.1ポイント、2.2ポイント上昇しており、収益性を重視する傾向が強まっている様子が窺われる。

年代別にみると、1位は、20代と40代が「金利が高い・利回りが良い」、30代と50代以上が「元金の保証があり安心」となった。2位は、20代と40代が「元金の保証があり安心」、30代と50代以上が「金利が高い・利回りが良い」となっている。



今後増やしたい金融商品の推移
(複数回答)



貯蓄する際重視する点 (3項目まで選択)

	全体	20代	30代	40代	50代以上	昨夏順位
元金の保証が安心	47.8	34.3	51.5	39.2	59.6	1
金利が高い・利回りが良い	42.3	43.3	38.6	40.9	46.4	3
預け入れ引き出しが自由	37.5	28.4	37.1	38.1	41.0	2
値上がり期待できる	25.1	31.3	28.0	28.2	16.9	4
利用金融機関が自宅から近い	11.2	9.0	11.4	13.8	9.0	5
利用金融機関の利便性が高い	8.1	13.4	9.1	6.6	6.6	6
利用金融機関のサービスが良い	6.0	11.9	4.5	6.1	4.8	7
勤務先が利用金融機関と取引している	4.6	6.0	7.6	3.9	2.4	9
利用金融機関が勤務先から近い	4.4	7.5	3.8	5.5	2.4	8
利用金融機関に友人、知人がいる	1.8	1.5	2.3	2.8	0.6	10
その他	1.3	3.0	0.0	1.1	1.8	—

5 ローン等の利用

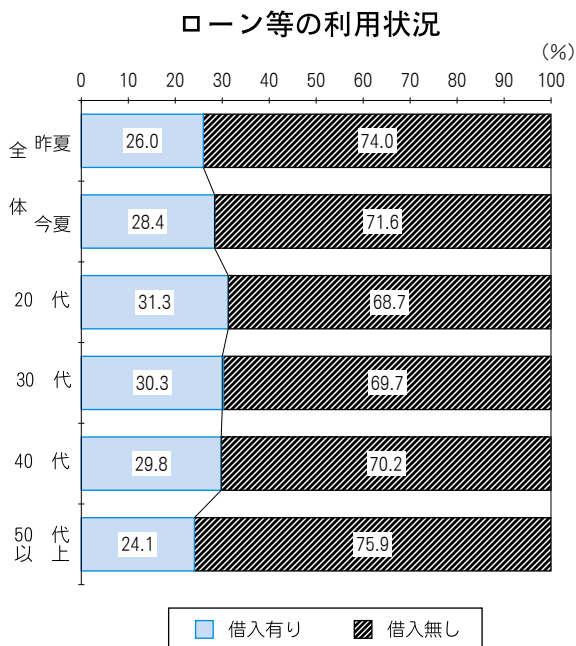
平均借入額は1,052万円

ローン等の利用状況をみると、利用者は28.4%で、平均借入額は1,052万円となった。昨夏と比較すると、利用者の比率が2.4ポイント上昇したほか、平均借入額も148万円増加した。

利用目的(複数回答)は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「子や孫などへの教育資金」と続いた。昨夏と比較すると、「教育資金以外の生活資金」、「自分の教育資金・自己啓発の資金」、「子や孫などへの教育資金」の比率が上昇した一方、「自動車・家電品の購入」、「土地・住宅の購入」などの比率は低下した。

借り入れ先(複数回答)は、「銀行(メガバンク・地方銀行)」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」、「ネット銀行」の順となった。昨夏と比較すると、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」などの比率が上昇した一方、「銀行(メガバンク・地方銀行)」、「ネット銀行」の比率は低下した。

これらを年代別にみると、ローン利用者の割合は、20代が最も高く、以下、30代、40代、50代以上の順となり、平均借入額は、20代が253万円、30代が1,453万円、40代が1,308万円、50代以上が726万円となった。利用目的は、20代で「自動車・家電品の購入」、30代以上で「土地・住宅の購入」が最多となった。なお、借入先はすべての年代で「銀行(メガバンク・地方銀行)」が最多となっている。



ローン等の借り入れ先・利用目的 (複数回答) (%)

		全体	20代	30代	40代	50代以上
利用目的	土地・住宅の購入	47.1	4.8	57.5	57.4	45.0
	自動車・家電品の購入	25.8	47.6	20.0	25.9	20.0
	子や孫などへの教育資金	12.9	19.0	17.5	14.8	2.5
	教育資金以外の生活資金	12.3	14.3	5.0	11.1	20.0
	自分の教育資金・自己啓発の資金	9.7	23.8	15.0	3.7	5.0
	旅行・レジャー	9.0	4.8	12.5	11.1	5.0
	その他	3.9	4.8	0.0	3.7	7.5
借入先	銀行(メガバンク、地方銀行)	49.7	52.4	50.0	51.9	45.0
	月賦・クレジット会社	25.8	33.3	17.5	22.2	35.0
	銀行以外の金融機関	16.8	14.3	22.5	13.0	17.5
	ネット銀行	11.6	9.5	10.0	11.1	15.0
	住宅金融支援機構等 政府系金融機関	6.5	0.0	2.5	7.4	12.5
	日本学生支援機構	6.5	23.8	5.0	3.7	2.5
	その他	3.2	0.0	5.0	3.7	2.5

6 夏季ボーナス

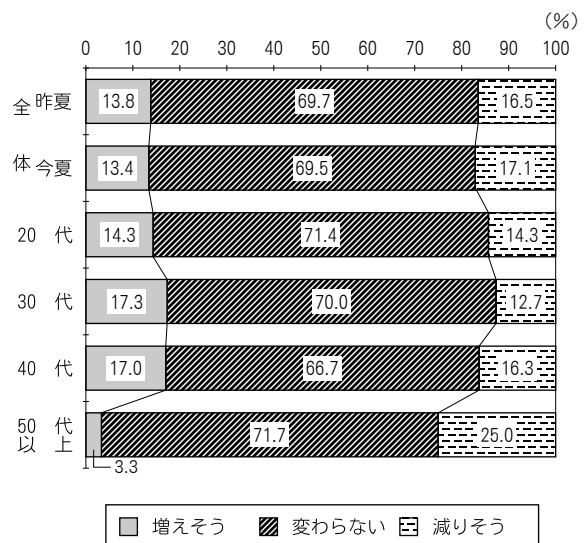
手取り予想額は減額が増額を上回る

昨夏と比べた今夏のボーナス（手取り額）の予想は、「増えそう」が13.4%、「減りそう」が17.1%となり、引き続き「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った。

両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は△3.7と、昨夏の△2.7から1.0ポイント悪化した。人材の確保・維持や従業員の生活支援のため、企業が所得や雇用環境の改善に取り組む動きがみられる一方、長引く物価高などを背景に景気の先行きに不透明感が漂うなかで、勤労者が今夏のボーナス支給にやや慎重な見方をしている様子が窺われる。

なお、年代別にみると、20代と40代は「増えそう」と「減りそう」の比率が同水準となっているが、30代で「増えそう」の比率が「減りそう」の比率を上回った一方、50代以上では「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回っている。

夏季ボーナス増減予想



平均手取り予想額は41万円

手取り予想額は、「21～30万円」が最も多く、以下、「1～20万円」、「31～40万円」、「51～70万円」の順となった。

また、平均手取り予想額は41万円（昨夏39万2千円）で、昨夏と比べて1万8千円の増加となった。

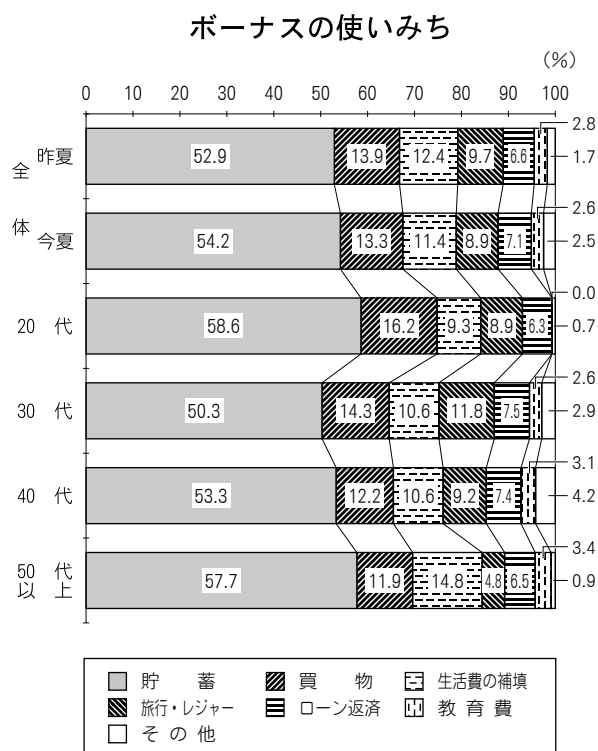
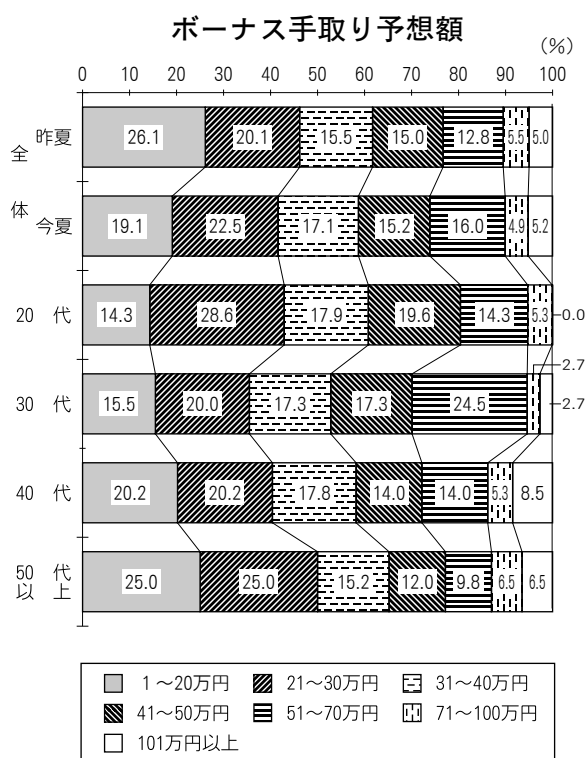
年代別にみると、20代が37万5千円（昨夏36万5千円）、30代が41万3千円（同36万円）、40代が43万4千円（同41万2千円）、50代以上が39万6千円（同42万円）で、昨夏比では、50代が2万4千円の減少となった一方、20代が1万円、30代が5万3千円、40代が2万2千円の増額となっている。

「貯蓄」の優位姿勢は変わらず

ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、以下、「買物」、「生活費の補填」、「旅行・レジャー」、「ローン返済」、「教育費」の順となった。「貯蓄」への配分割合は5割以上を占めており、将来に備えて貯蓄を重視する動きが続いている。

昨夏と比較すると、各比率に大きな変動は見られなかったものの、「貯蓄」、「ローン返済」の比率が上昇した。一方、「生活費の補填」、「旅行・レジャー」、「買物」、「教育費」の比率は低下した。

年代別にみると、すべての年代で「貯蓄」が1位となっている。2位は20代から40代で「買物」、50代以上で「生活費の補填」となった。また、昨夏と比較すると、20代で「貯蓄」の上昇、40代で「貯蓄」の低下、50代以上で「貯蓄」の上昇と「旅行・レジャー」の低下が各々目立っている。



7 お中元

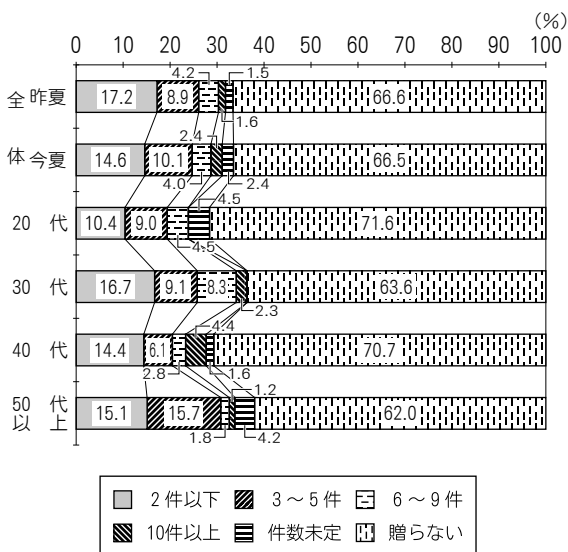
贈る件数は平均 3.5 件

今夏、お中元を贈る予定のある人は 33.5% で、昨夏（33.4%）と比べて 0.1 ポイントとわずかながらも上昇した。

贈る件数は、「2 件以下」が最も多く、以下、「3～5 件」、「6～9 件」、「10 件以上」・「件数未定」（同率）の順となった。平均贈答件数は 3.5 件（昨夏 3.1 件）で昨夏を上回った。

年代別にみると、贈る予定のある人の比率は 20 代が 28.4%（昨夏比△4.4 ポイント）、30 代が 36.4%（同+8.4 ポイント）、40 代が 29.3%（同△3.4 ポイント）、50 代以上が 38.0%（同+0.1 ポイント）となった。

お中元を贈る件数



平均単価は4,194円、平均予算は14,679円

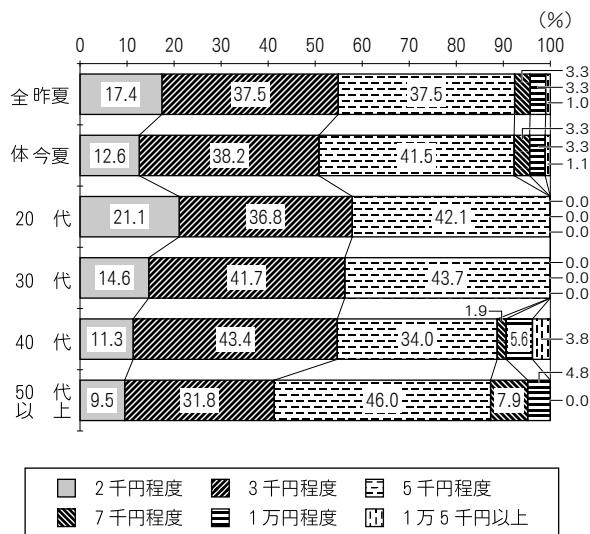
1 件あたりの単価は、「5,000 円程度」（41.5%）が最も多く、次いで「3,000 円程度」（38.2%）となっており、この両者で約 8 割を占めた。

また、平均単価は 4,194 円（昨夏 3,910 円）、平均予算総額は 14,679 円（同 12,121 円）となった。

なお、年代別の平均単価は、20 代が 3,656 円、30 代が 3,708 円、40 代が 4,550 円、50 代以上が 4,446 円となっており、平均予算総額は、各々 12,066 円、14,092 円、17,290 円、13,784 円となった。

お中元の相場

（1 件当たり平均単価）



贈りたい商品は「お菓子・スイーツ」が最多

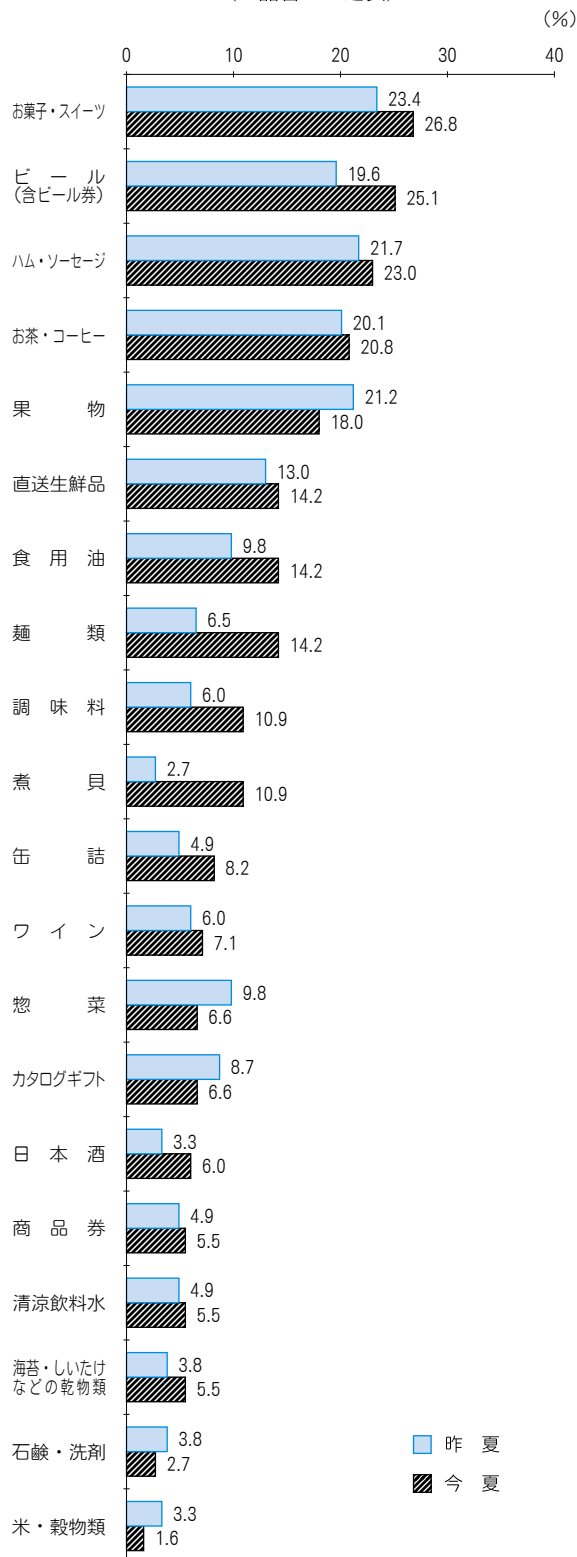
お中元に贈りたい商品（5 品目まで選択）は、「お菓子・スイーツ」が最多で、以下、「ビール」（含むビール券、以下同じ）、「ハム・ソーセージ」、「お茶・コーヒー」、「果物」の順となった。

上位品目を昨夏と比較すると「お菓子・スイーツ」は 3.4 ポイント上昇し、昨夏同様 1 位となった。また、昨夏 5 位の「ビール」（昨夏比+5.5 ポイント）が 2 位に上昇した一方、2 位の「ハム・ソーセージ」（同+1.3 ポイント）が 3 位に、3 位の「果物」（同△3.2 ポイント）が 5 位にそれぞれ後退した。なお、4 位の「お茶・コーヒー」（同+0.7 ポイント）は同順位であった。

今夏お中元に贈りたいもののベスト 5（年代別）

順位	20 代	30 代	40 代	50 代以上
1	ビール (含むビール券)	お菓子・スイーツ	お菓子・スイーツ	果物
2	お菓子・スイーツ	ハム・ソーセージ	ビール (含むビール券)	直送生鮮品
3	お茶・コーヒー	お茶・コーヒー	ハム・ソーセージ	ハム・ソーセージ
4	ハム・ソーセージ	ビール (含むビール券)	お茶・コーヒー	お茶・コーヒー
5	調味料	食用油	食用油・煮貝	ビール (含むビール券)

お中元に贈りたいもの
(5品目まで選択)



8 夏休みの過ごし方

国内宿泊旅行の平均宿泊日数は2.2日

夏休みの過ごし方（複数回答）は、「日帰り旅行」が27.8%で最多となった。以下、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、「スポーツ・健康づくり」、「アウトドア」、「海外旅行」と続いた。なお、「特に予定なし」は50.7%となった。

昨夏と比較すると、「日帰り旅行」（昨夏比+2.2ポイント）、「スポーツ・健康づくり」（同+1.5ポイント）、「海外旅行」（同+1.3ポイント）、「国内宿泊旅行」（同+1.2ポイント）、「アウトドア」（同+0.7ポイント）、「特に予定なし」（同+0.6ポイント）が上昇した一方、「帰郷」（同△1.2ポイント）は低下した。

年代別にみると、「特に予定なし」を除いた場合、30代以上は1位が「日帰り旅行」、2位が「国内宿泊旅行」、20代は「日帰り旅行」と「国内宿泊旅行」が同率1位となった。昨夏と比較すると、20代の「スポーツ・健康づくり」、「アウトドア」、30代の「海外旅行」、40代の「日帰り旅行」の上昇、20代の「国内宿泊旅行」の低下が目立っている。

「国内宿泊旅行」の宿泊日数をみると、「2泊」が45.7%を占め、以下、「1泊」（30.2%）、「3泊」（13.8%）となった。昨夏と比較すると、「1泊」（昨夏比△6.2ポイント）が低下した一方、「3泊」（同+2.9ポイント）と「2泊」（同+0.2ポイント）が上昇した。この結果、平均宿泊日数は2.2日と昨夏（1.9日）より増加した。

(特別調査) 賃上げ・物価上昇関連

本調査では、賃上げの状況、物価上昇に伴う家計への影響について伺った。

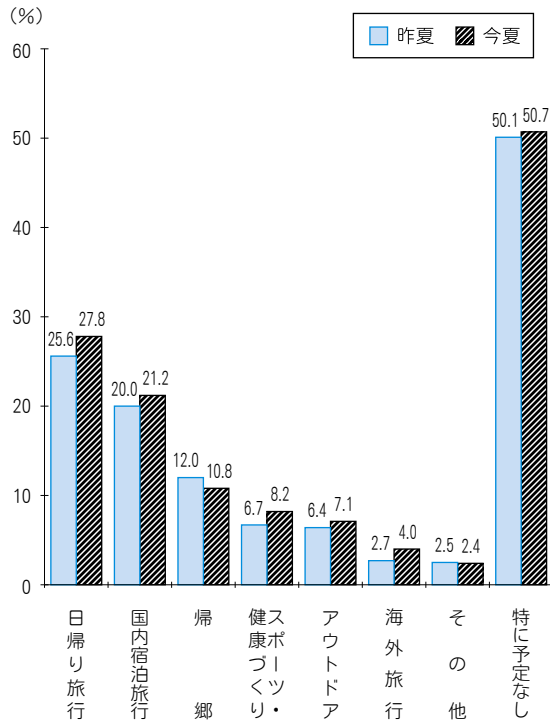
「増えそう」が「減りそう」を上回る

定例給与を受け取っている勤労者の、昨年と比べた定例給与（時間外手当、ボーナスを除く）の水準については、「増えそう」が17.8%、「変わらない」が66.4%、「減りそう」が14.4%となった。この結果、「増えそう」から「減りそう」を引いた差は、3.4と昨夏（1.9）と比べて1.5ポイント上昇した。

「増えそう」の回答を年代別にみると、30代が25.5%と最も高く、以下、40代が22.8%、20代が19.1%、50代以上が4.9%となっている。一方、「減りそう」は50代以上が20.5%と最も高く、以下、40代が13.8%、30代が12.7%、20代が4.3%となっている。

定例給与増加予定の理由については、「定期昇給」が43.2%、「ベースアップ」が28.4%、「定期昇給とベースアップ」が28.4%となった。合算すると全体の71.6%が定期昇給で、56.8%がベースアップにより増加予定としている。

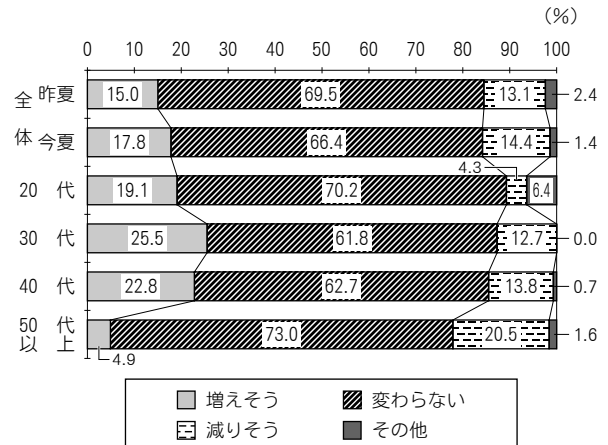
夏休みの過ごし方（複数回答）



夏休みの過ごし方（複数回答）

	今夏	20代	30代	40代	50代以上
日帰り旅行	27.8	22.4	34.1	30.9	21.7
国内宿泊旅行	21.2	22.4	29.5	23.2	12.0
帰郷	10.8	13.4	11.4	12.2	7.8
スポーツ・健康づくり	8.2	13.4	5.3	12.2	4.2
アウトドア	7.1	13.4	8.3	7.7	3.0
海外旅行	4.0	3.0	7.6	3.9	1.8
その他	2.4	1.5	5.3	1.7	1.2
特に予定なし	50.7	52.2	37.9	48.1	63.3

定例給与の水準



6割強で家計負担が増加

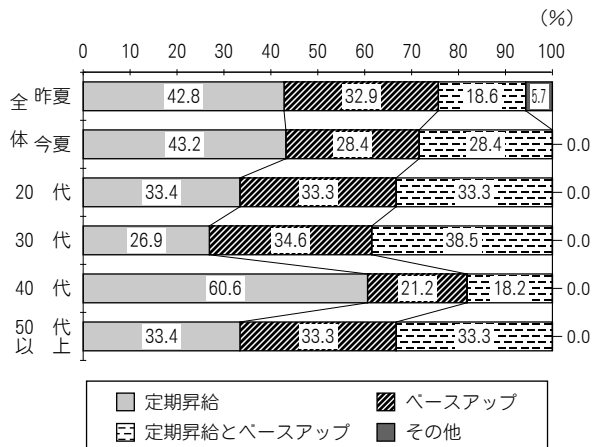
昨年と比べた1か月の家計負担の増加額については、「10,000円以上20,000円未満増加」が21.6%で最多となった。以下、「5,000円以上10,000円未満増加」が20.1%、「20,000円以上増加」が15.6%、「5,000円未満増加」が8.4%の順となり、6割強が昨夏に比べ家計負担が増加したと回答している。

昨夏と比べると、「5,000円以上10,000円未満増加」（昨夏比△3.8ポイント）、「変わらない」（同△1.5ポイント）、「減少した」（同△1.4ポイント）、「5,000円未満増加」（同△0.9ポイント）の比率が減少した。一方、「10,000円以上20,000円未満増加」（同+5.1ポイント）、「20,000円以上増加」（同+2.5ポイント）が増加し、家計負担の増加額は拡大している様子が窺われる。

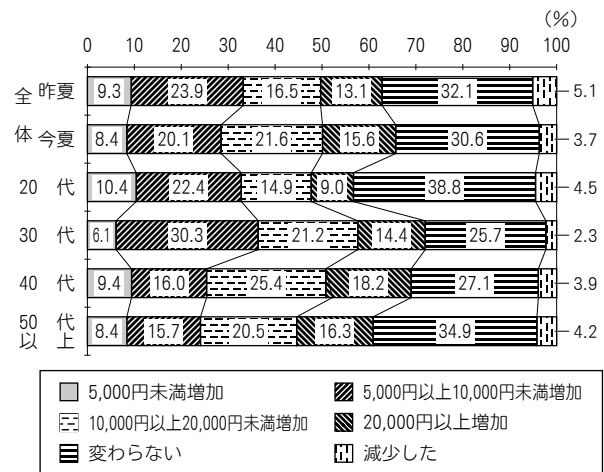
主に増加した項目については、「食費」が50.4%で最多となった。以下、「燃料費（ガソリン代）」（35.0%）、「水道・光熱費」（31.7%）、「外食費」（17.2%）となっている。昨夏と比べると、外食費（昨夏比+3.6%）、通信費（同+3.1%）の上昇が目立っている。

昨年と比べ、物価がどの程度上昇しているかについては、「5～10%未満」が36.8%と最も高く、以下、「3～5%未満」（30.6%）、「10～20%未満」（18.5%）、「20%以上」（7.3%）、「3%未満」（6.8%）の順となっている。

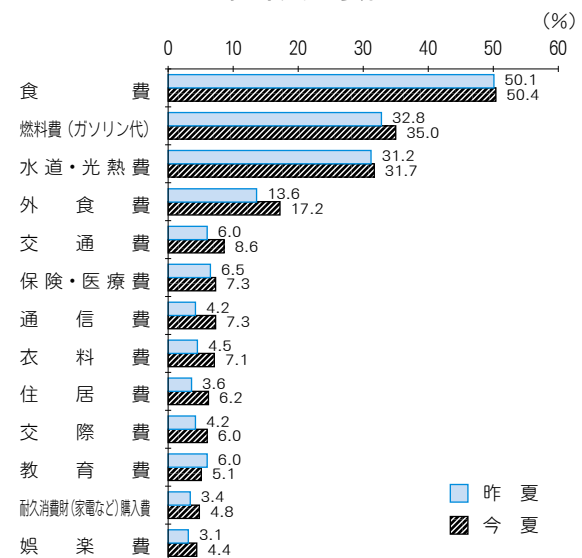
定例給与の増加理由



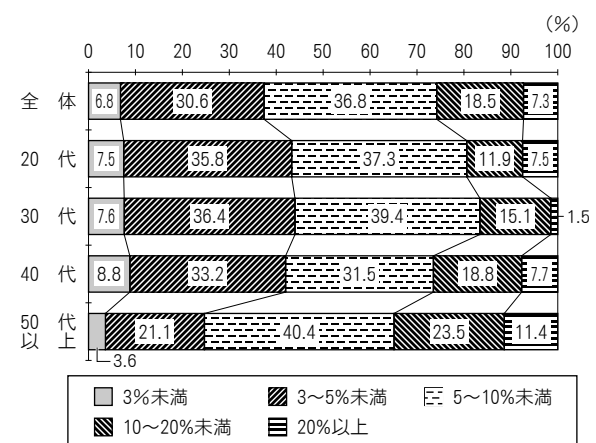
家計負担額の水準



家計負担要因



物価上昇水準



JIMOCA

ジモカ



JIMOCAで タッチ決済が できるようになった?

キャッシュカードと
買い物ができる
クレジットカードが一体化。
カードはまとめて。
お財布もお支払いも
スマートに。

●JIMOCAの初年度年会費は無料です。次年度以降は一定の条件により無料となります。(一般・VFK:本人会員1,375円、家族会員440円、ゴールド:本人会員11,000円、家族会員1,100円が必要となります。※税込)●ご入会には審査があり、ご希望に添えない場合がございます。



平野 美宇

平野 美宇 選手 (木下グループ所属)

便利を tap! ユビサキ Bank
山梨中銀アプリ
Yamanashi Chuo Bank



くわしくは山梨中央銀行の窓口またはフリーダイヤルへどうぞ

ふ れ あ い ハ ロ ー に

0120-201862 照会コード **9**

(受付時間) 月曜日～金曜日 9:00～17:00 (ただし、祝日・12/31～1/3は除きます。)

山梨から豊かな未来をきりひらく

山梨中央銀行

<https://www.yamanashibank.co.jp>

(2025年12月9日現在)
33415-(GP)-2025.12